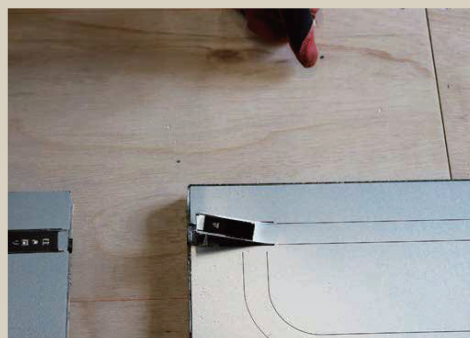


パネルを 繋ぐ手順



1 パネル同士繋ぐ部分の
アルミを剥がす



2 【止め】の部分に
【AT-55】を挿入



3 配管を持ってパネル
同士繋ぐ



4 最後まで入っているか確認
もう一ヶ所も同じく連結



5 完成

注意事項 施工を始める前にご覧ください!!

警告・注意

この使用上の注意は、製品を正しくお使いいただき、危害を未然に防止するためのものです。使用上のご注意は必ず守ってください。



警告

取り扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う危険の状態が生じることが想定される場合、その危険を避けるための注意事項です。



注意

取り扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うかまたは物的損害のみが発生する危険が生じることが想定される場合の注意事項です。

本製品をご使用の際には、けがや事故防止のため、熱源機器メーカーの仕様に従ってください。



警告

- 指定された場所以外には釘やタッカーを打たないでください。
- パネルの角を床に打ち付けないでください。
- パネルの黒い部分には絶対に釘やタッカーを打たないでください。



注意

- 水質によっては配管詰まりの原因となることがあります。必ず飲料水として使用可能な水をご使用ください。
- 床仕上材は必ず床暖房用のものをご使用ください。
- 使用する仕上材の種類により施工方法が異なります。各仕上材に適した施工方法を確認の上、作業を行ってください。
- 設置時に使用する補強材や接着剤等は、ホルムアルデヒドの放散が少ない材料をご使用ください。
- 用途に合った製品をお選びください。不適切な用途に使われますと事故の原因となることがあります。
- 施工の前に取扱説明書をよくお読みの上、正しく施工をしてください。誤った施工は事故の原因となります。
- 水がかかったり常時多湿の場所または土足で多数の人が出入りする場所への設置はできません。
- 家具を固定設置する場合は、放熱で家具をいためないよう床暖房パネル放熱面上部へは設置しないでください。また、放熱面上部に設置する場合はすき間をあけてください。
- 水漏れの原因となりますので、床暖房部の床面に、刃物で傷を付けたりしないでください。
- 回路配管の接続間違いにより重大な不具合を引き起こす可能性があります。配管の取り回しには十分ご注意ください。
- パネルのアルミ部分で手を切らないよう取扱いは十分お気を付けてください。
- ご使用いただく熱源機は、圧力0.1MPa以下のものをご使用ください。
- 圧力検査は必ず0.06MPa以下で行ってください。
- 床暖房パネルは温度変化による膨張・収縮によるこすれ音がありますが、異常ではありません。
- 商品の仕様・外観は改良のため予告なく変更する場合があります。
- 施工が完了した後は、必ず試運転および圧力検査を行ってください。

施工マニュアル

— 遠赤外線 温水パネル床暖房 —

Terah Heart
HEATING SYSTEM

はじめに P3「注意事項 施工を始める前にご覧ください!!」をお読みになってから、P1「施工手順」**1**~**10**
P3「パネルを繋ぐ手順」**1**~**5**の順に施工してください。
P1「フロアマニュアル」も掲載しております。
フロア材の貼り方には注意してください。

施工前にご準備いただく工具類



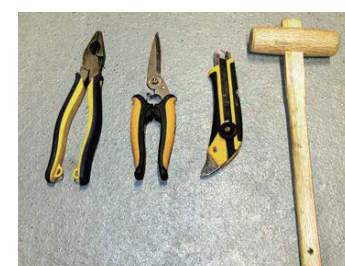
コンプレッサー
高圧用ホース (赤)
低圧用ホース (青)



フロア用タッカー
フロア用ステープル 32~36mm



インパクトドリル
木工用ボアビット (65Φ)
木工用ロングきり (L=400、30Φ)



ペンチ、はさみ、カッター
木ハンマー



墨つぼ、防水テープ



掃除機

株式会社GROOVE

〒220-0005 神奈川県横浜市西区南幸2-21-5
TEL: 045-290-3884 FAX: 045-290-3885



1 掃除

パネルを敷設する範囲の掃除をします。釘や突起物などは取り除くか叩いておきます。



2 墨出し

フロアのジョイント部分とパネルの配管部が重ならないように墨を出します。(※パネル表面の配管のラインには釘打ち出来ません。)



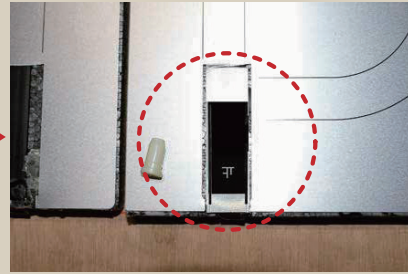
3 パネルのカット

敷設する範囲に合わせてパネルをカット。



4 パネルをセット

敷設場所に必要枚数をセットします。



5 パネル外周のアルミ剥がし

パネルの外周の【止】【行き戻り】の金具を全て取り外します。



6 パネルの角部分の断熱材をカット

カーブの部分を曲がりやすくする為です。



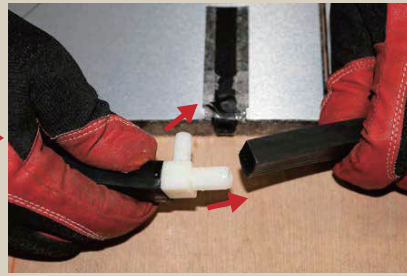
7 パネル固定

タッカーでパネルを下地に固定します。(※ステープル用タッカーが好ましい。)



8 金物【AT-T5】で止める

パネル外周の【止】の金具の部分に【AT-T5】を挿入します。(※木のハンマーなどで叩くと入りやすい。)



9 メイン配管(行き)の接続

【AT-EPDM7577】同士で連結します。



10 メイン配管の接続

金物が最後までしっかり入っているかの確認をします。 ※注1



11 配管の端末止め

配管の端末部分は【AT-T7】で止めます。



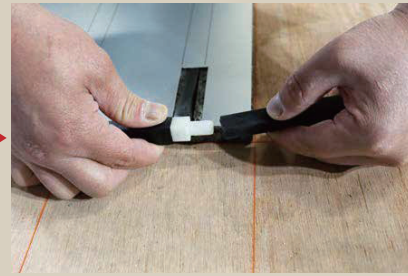
12 メイン配管(戻り)の接続

9・10・11と同様です。



13 熱源機までの配管作業

戻りの配管の7φの部分に【AT-EPDM7φ】を繋ぎパネルの外周・熱源機までの長さを測り切断します。



14 熱源機までの配管作業

切断した【AT-EPDM7φ】を繋ぎ込みます。



15 配管固定作業

パネルから配管が離れないようにテープなどで固定していきます。



16 床下へ配管を落とす

65φの座彫りのキリで4mmほど掘ります。



17 床下へ配管を落とす

座彫りした場所を皿に30mmのキリで下地を開口します。



18 配管に行き・戻りの表示後床下へ入れる



19 床下へ落とした配管はCD管を通して熱源機まで通していく



20 完成

圧力検査について
必ず0.06MPa以下で行ってください。

→ **続いて「P3.パネルを繋ぐ手順」をご覧ください。**

※注1 金物が最後までしっかり入っていない場合、漏水の原因となります。最後まで確実に入っているかをご確認ください。また全ての金物を配管に繋ぐときは、水または水に中性洗剤を混ぜた液体をつけてから入ると入りやすいです。潤滑剤などは抜けやすくなりますので使わないでください。

重要

※1 フロアを貼る時は壁際は必ず3～5mm空けてスペーサーを必ず使用する。
梅雨から夏にかけて湿気が多い時期には空気中の湿気を吸って膨張します。逆に、冬など乾燥時期には収縮します。フロア材の膨張、収縮、反り、曲がり様々な寸法変化が起こるのを隙間(クリアランス)を設けて回避します。

※2 フロア下のボンドは必ずウレタン系を使用し、多めに塗る。
フロア下のボンドはウレタン系のボンドを使用してください。また、ボンドも多めに使用し、温水パネル全面に伸ばすように塗ってください。ボンドの量が少ない場合、床が鳴る場合がございます。
※3 フロアのサネには接着剤を付ける事がポイントです。



1 フローリングと床暖房の割付けを行う。

・フローリングの短辺方向にも釘止める為。
・温水パネルの割付けを考慮する。

画像：2015 建材総合1 インテリア建材 ベリティスカタログ



2 ボード粉、木屑、ゴミ等がヒーターとフロアの間に入らないように温水パネル上を掃除してフロアを張る。



3 メイン配管・パネル同士の接合部分のすべての配管を養生テープで養生する。

※周辺材(捨て貼り)と配管の間を5mm程度空けてください。



4 壁際は必ず3～5mm空けてフロアを張る。

※1 夏場のフロアの膨張、冬場の乾燥収縮に対応出来る様に、壁際で余裕を持たせる。



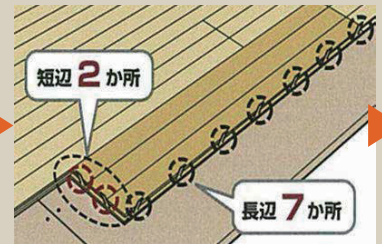
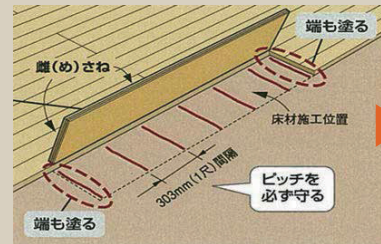
5 温水パネルに接着剤を塗布する。

・下地は必ず合板捨て張りとする。
・フローリングの方向は、温水パネル内の配管とフローリングの長手方向が直交する様に張る。
※2 ボンドは必ずウレタン系のボンドを使用する。
※3 フロアを貼る時は必ずスペーサーを使用しクリアランスを作る。
・フロアのサネには接着剤を付ける。

接着剤はメーカー推奨品を使用する

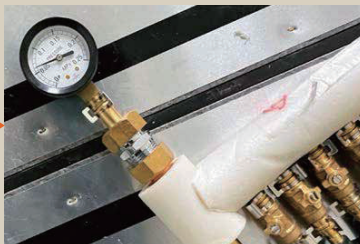
画像：2015 建材総合1 インテリア建材 ベリティスカタログ

品名	単位	価格(税別)
接着剤(ウレタン系)	1.5kg/缶	1,500円
接着剤(ウレタン系)	3.5kg/缶	3,500円
接着剤(ウレタン系)	4.5kg/缶	4,500円
接着剤(ウレタン系)	5.5kg/缶	5,500円
接着剤(ウレタン系)	6.5kg/缶	6,500円
接着剤(ウレタン系)	7.5kg/缶	7,500円
接着剤(ウレタン系)	8.5kg/缶	8,500円
接着剤(ウレタン系)	9.5kg/缶	9,500円
接着剤(ウレタン系)	10.5kg/缶	10,500円



6 長辺7か所、短辺2か所の釘打ちを行う。

床材(め)さねのステープル(く)打ち
※固定にはステープルまたはフロア材(め)をご使用ください。
※必ず事前に、床材(め)の寸法を確認し、釘の位置を正確に打ち込んでください。
※フロア材(め)の寸法は、床材(め)の寸法と一致する必要があります。



7 温水パネル・メイン配管に釘・ステープル・ビスが打たれてないかこまめに圧力ゲージを確認する。
ゲージのメモリが0にならないければ配管は打たれておりません。
※数日経過するとゴム配管の特性上圧力が自然に下がるので、その際は再度エアーを補充してください。